

令和 5 年 6 月 22 日現在

機関番号：12301

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2019～2022

課題番号：19H03867

研究課題名（和文）患者参加型医療推進と治療法決定プロセス改善に向けた組織的アプローチ

研究課題名（英文）Systematic approach for enhancing patient and family engagement and improving patient decision making process

研究代表者

小松 康宏（Komatsu, Yasuhiro）

群馬大学・大学院医学系研究科・教授

研究者番号：60195849

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 12,800,000円

研究成果の概要（和文）：今日、医療安全、患者・医療者の満足度、患者アウトカム改善につながるものとして患者参加型医療が国際的に重要視されている。患者参加型医療として、患者が自らの医療に関し理解し、治療方針決定に主体的に参加すること、患者の視点を病院運営に反映すること等がある。本研究の結果、（1）「患者参加型医療」の概念、定義、対象を整理することができた、（2）国内医療機関における患者諮問委員会やカルテ閲覧等の患者参加型医療推進体制の現状と課題が示された、（3）インフォームド・コンセントや共同意思決定プロセスを向上させるための教材を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の結果、（1）患者参加型医療に関する共通の概念と用語が示され、今後の実践や研究の推進が可能となる、（2）わが国における患者の診療情報アクセス体制や患者諮問委員会体制構築の推進が可能となる、（3）インフォームド・コンセント、共同意思決定プロセスの質向上によって、患者参加型医療が発展することが期待される。

研究成果の概要（英文）：Patient engagement is recognized as an important component of health care which improves patient safety, patients and healthcare providers experience, and patient outcomes. Patient engagement includes patients understanding their own medical care, participating in healthcare decisions, and reflecting patients' perspectives in hospital management. As a result of this research, (1) we analyzed the concept, definition, and target of patient engagement in healthcare, (2) we clarified the current status and issues of the patient engagement in Japan, including the challenges of patient advisory committees and patients access to health record, and (3) we developed education materials to improve informed consent and shared decision-making processes.

研究分野：医療の質・安全学

キーワード：患者参加型医療 共同意思決定 インフォームドコンセント 患者諮問委員会

1. 研究開始当初の背景

医療が高度・複雑化し、複数の併存疾患を有する高齢患者が増加している今日、安全で質の高い医療を実現する重要な要素として「患者参加型医療」が国際的に注目されている。患者参加型医療とは、患者が医療者と協働で医療の質と安全を向上させることを意味し、参加様式は、治療選択決定や、セルフケアなど自分自身の医療に主体的に取り組むことから、病院の運営や地域、国レベルの医療政策に参加することまで、幅広い領域を含んでいる。患者参加型医療は、患者の経験・満足度を向上させ、QOL や臨床アウトカムを改善するだけでなく、医療専門職の職務満足度を高め、ストレスや燃えつき、離職を減らすことも示されている⁽¹⁾⁽²⁾⁽³⁾。病院レベルでは、患者の視点を病院運営や医療の質改善に反映するための患者諮問委員会 (patient advisory council) が北米では 20~30%の医療機関に設置されている⁽³⁾。一方、わが国では「患者諮問委員会」に相当する委員会を設置している医療機関は少なく、群馬大学病院が国立大学病院としてはじめて本年 6 月に委員会を設置したところである。欧米諸国における患者参加型医療の先行事例や、患者諮問委員会の活動内容などを調査し、わが国の患者参加型医療推進に活かすことは重要な課題である。

患者参加型医療の根幹は、治療法の選択決定に患者が主体的にかかわることにある。そのためにはインフォームド・コンセント (IC) や共同の意思決定 (Shared decision making) のプロセスが要となるが、医療現場の IC の質や IC に関わる医療者、特に医師に対する教育は国内外ともに満足できるものではない⁽⁴⁾⁽⁵⁾。患者参加型医療の発展方向を明らかにするとともに、治療法決定に関する患者参加を促進するために、IC に関する教育を推進し、医療の質と安全を向上させることは急務である。

2. 研究の目的

本研究の目的は、医療の質と安全を向上させ、医療資源の有効活用を目指すために必要な「患者参加型医療」の概念、定義等を整理し、国内外の現況を調査し、今後の課題を明らかにすることである。さらに、患者参加型医療の根幹となる治療方針の決定に関し、IC ならびに共同意思決定 (Shared Decision Making) の教育プログラムを開発し、治療法決定プロセスの質改善を目指す。

3. 研究の方法

(1) 患者参加型医療の概念、定義、対象の整理

PubMed 等のデータベースを用いた文献調査を実施した。さらに国際学会出席や国外研究者との面談等を通じて情報を収集した。

(2) 患者諮問委員会 (patient advisory council) の実態調査

海外の患者諮問委員会の実態に関しては、PubMed 等を用いた文献調査、国際学会出席や国外研究者との面談等を通じて情報を収集した。国内病院における患者諮問委員会の実態に関しては、病院機能評価認定施設 (一般病院 2・3)、JCI 認定施設、特定機能病院のいずれかに該当する国内 1,061 施設を対象とするアンケート調査を実施した。

(3) わが国における患者の医療への参加度

わが国の慢性腎臓病患者を対象とし、調査票を用いる横断的観察研究を実施した。NPO 法人腎臓サポート協会にメールアドレスが登録された会員に、研究協力の依頼をメールで送付し、協力する意思がある会員が web 上で回答し、腎臓サポート協会がデータを収集し、結果を研究者に提供する。調査項目として、性別、原疾患、治療歴、患者参加度スコア (Patient Activation Measure-13) 等である。PAM13 使用にあたっては使用許諾を得た。研究実施にあたっては倫理審査の承認を得た。

(4) 患者のカルテ閲覧に関する医療者の意識調査

患者が自らの健康状態、診断名、検査結果、治療内容について理解することは、患者参加型医療を進める上で重要であり、海外では患者が自らの医療情報・カルテにアクセスできる体制が構築されている。患者とのカルテ・診療情報の共有をすすめるうえで、医療者の意識を調査するため、WEB 調査によるアンケートを実施した。

WEB 調査会社に登録し、カルテ記載実績のある医師を対象として無記名自記式アンケート調査を行った。アンケートでは、回答者の属性、カルテ閲覧に関する意識、初診時記録や退院サマリなどの要約、検査結果、医師の日々の診察記事、他院への紹介状などの個別項目に対する患者閲覧の可否に関する意識、カルテ閲覧や診療記録のコピー配布の経験の有無、カルテ閲覧や診療記録のコピー配布による患者の反応を調査した。

(5) IC ならびに共同意思決定の教育プログラム開発

IC ならびに共同意思決定の概念、対象、課題等を整理するため、PubMed 等のデータベースを用いた文献調査を実施した。また、米国医療研究質庁 (Agency for Healthcare Research and Quality, AHRQ) の許諾を得たうえで、AHRQ の開発した IC 教育プログラムの一部の日本語訳を作成した⁽⁶⁾。さらに、それらを元に、医療者を対象とする IC 教材 (動画) を作成した。

4. 研究成果

(1) 患者参加型医療の概念、定義、対象の整理

患者参加型医療に該当する英語は、“patient participation”, “patient engagement”, “patient involvement”, “patient-centered care” などがある。主な定義を表1に示すが、Carmanらが2013年に米国の医療政策専門誌である「Health affairs」に発表した論文中の定義、すなわち「患者参加型医療とは、患者、家族、代理人、医療者が医療のさまざまなレベル、すなわち直接の診療、病院体制の構築とガバナンス、医療政策レベルで、医療の質と安全向上のために積極的に協働することである」が引用されることが多い⁽¹⁾。そのほかの代表的な定義を表1に示すが、共通する要素としては、医療に関わる様々な場面で、患者、家族、医療者が協働すること、協働は、具体的な行動や組織の基本方針などにみられること、患者と家族は医療チームに欠かせないチームメンバーであること、患者の健康、医療の質と安全、医療のありかたを改善するための協働であること、が含まれている。

患者・市民が政策立案に参加する形態は、広報などを通じた情報、パブリック・コメント、公聴会、審議会委員など多様である。Carmanらは、医療における患者参加(Patient engagement)も、相談(consultation)、関与(involve)ment)、協働(partnership)の3段階で発展することを示した⁽¹⁾。医学研究への患者・市民参加は、英国やわが国ではPPIと称され、InvolvementがEngagementより広範で上位の概念となっているが⁽⁷⁾、北米ではEngagementの中に含まれるため海外の論文を読む際に注意が必要であることがわかった。

表1. 患者参加型医療の代表的な定義

出典	定義
Carman 2013 ⁽¹⁾	患者、家族、代理人、医療者が医療の様々なレベル、すなわち直接の診療、病院体制の構築とガバナンス、医療政策レベルで、医療の質と安全向上のために積極的に協働すること
Maurer M, AHRQ 2012 ⁽⁸⁾	患者、家族、医療者の一連の行動と組織の一連の方針と手順であり、患者と家族を医療チームのアクティブ・メンバーに含め、また、医療者・医療組織との協力的関係を促進するものである。患者・家族参加によって期待される目標の一つは、病院の医療の質と安全の改善である。
WHO 2016 ⁽⁹⁾	保健医療の安全、質、患者主体性を強化することを目指して、患者、家族、医療者が、患者がケアに積極的に関与することを促し、支援能力を構築するプロセス
Minniti, Abraham(IPFCC) 2013 ⁽¹⁰⁾	患者・家族中心の医療システムを達成するための戦略であり、参加は4つのレベルで行われる。(1)診療現場-患者と家族が実際のケア、治療計画、意思決定に参加する (2)医療機関レベル-患者と家族が病院の質改善活動や運営の再構築(redesign)に参加する (3)地域レベル-患者と家族が地域の資源を医療組織(病院)、患者、家族と結びつける、(4)政策レベル-自治体、地域、国レベル

(2) 患者諮問委員会(Patient Advisory Council)の実態調査

患者諮問委員会の実態に関しては、PubMed等を用いた文献調査、国際学会出席や国外研究者との面談等を通じて情報を収集した。患者諮問委員会とは、病院の方針や各種活動に関して、病院幹部、医療者、病院職員、患者・家族アドバイザー(Patient/Family Advisor, PFA)が協働するために定期的に集まる公的なグループである。Herrinらの報告では2013年~2014年の時点で、米国の急性期病院の38%に患者諮問委員会が活動している⁽¹¹⁾。具体的な活動内容に関し、国際学会ならびに米国病院担当者のヒアリングによって調査した。

多くの病院では、患者諮問委員会は定例会議を開催し、医療の質・安全や、病院運営に関する情報を収集し、提言をまとめ、年次活動報告を作成している。さらに、患者・家族アドバイザーが患者・家族のメンターを務めたり、研究審査委員会や安全・質改善委員会に参加したり、学生や職員への教育研修を担当したり、多様な活動を行っている。代表的な例を2つ示す(2019年時点)、エモリー大学は100の委員会があり、ICU看護師の共感研修、ベッドサイドでの申し送り改善と研修、救急外来のプロセス改善、病院視点から患者視点の癌治療、院内感染の軽減、等を行っている。ノースカロライナ大学病院には9つの委員会があり、委員総数は約100名。薬学部、医学部学生に対する講義(患者経験、悪い知らせの伝え方)、小児ICU入院中の親との昼食、夕食会、リハビリテーションのプロセス改善活動、等を実施している⁽¹²⁾。

各種団体が患者諮問委員会の活動を支援している。米国政府のAHRQは、病院が患者諮問委員会を設立するにあたっての支援資料を提供している⁽¹³⁾。米国病院協会も「患者諮問委員会青写真：スタートアップと戦略」を提供している⁽¹⁴⁾。

全国の患者諮問委員会のネットワーク(The PFA network)も構築されており、定期的な会合、情報交換、研修教育の提供などを行っている⁽¹⁵⁾。

国内施設対象のアンケート調査では、311施設から回答が得られた(WEB回答98、郵送213施設)。WEB回答施設のうち1施設のみが「患者家族アドバイザー会議」を開催していた。

(3) わが国における患者の医療への参加度

WEB調査によるアンケート調査を実施し回答を得た。海外の慢性腎臓病・透析患者とわが国の患者の参加度の比較を解析している。

(4) 患者のカルテ閲覧に関する医療者の意識調査

医師440人から回答を得た。医師の経験年数は11年以上が386人(87.7%)を占めた。カルテ閲覧に総論賛成であると回答したのは230人(52.3%)であった。検査結果や画像・病理診断報告書を患者が閲覧することに問題ないとの回答は約8割を超えていた。なお、2019年に群馬大学病院が入院患者に対しカルテ閲覧制度を開始した時点の病院職員へのアンケートでは52.4%が総論賛成と回答している。

(5) ICならびに共同意思決定の教育プログラム開発

・医療者に対するIC教材の作成。米国医療研究質庁(Agency for Healthcare Research and Quality, AHRQ)が開発した「インフォームド・コンセントをインフォームド・チョイスに」研修教材ならびに指導者ガイドの日本語版を作成した。それらを参考に、日本の医療者が活用できるインフォームド・コンセントとティーチャックの教育動画を作成した。

・共同意思決定(Shared Decision Making)の教科書出版の一部を担当した⁽¹⁸⁾。共同意思決定の話し合いでは、医学的情報を伝えるだけでなく、患者の価値観、選好、懸念事項を引き出すことが重要であるが、医療者はわかりやすく伝えようとするあまり、一方的な説明になりがちである。これらの課題に気づき、その後のコミュニケーション改善につなげるための、医師、看護師、患者、家族役を交互につとめるロール・プレイ研修を開発し、実施方法を教科書で公開した。

引用文献

- 1) Carman KL, Dardess P, Maurer M, et al. Patient and family engagement: a framework for understanding the elements and developing interventions and policies. *Health Affairs* 32:223, 2013
- 2) Frampton, S. B., S. Guastello, L. Hoy, et al. Harnessing Evidence and Experience to Change Culture: A Guiding Framework for Patient and Family Engaged Care. National Academy of Medicine, Washington, DC.
<https://nam.edu/wp-content/uploads/2017/01/Harnessing-Evidence-and-Experience-to-Change-Culture-A-Guiding-Framework-for-Patient-and-Family-Engaged-Care.pdf>.
- 3) Herrin J, Harris KG, Kenward K, et al. Patient and family engagement: a survey of US hospital practices. *BMJ Qual Saf* 0:1-8, 2015
- 4) Brezis M, Israel S, Weinstein-Birenshtock A, et al. Quality of Informed consent for invasive procedures. *Int J Qual Health Care* 20:352-357, 2008
- 5) Koller SE, Moore RF, Goldberg MB, et al. An informed consent program enhances surgery resident education. *J Surg Edu* 74: 906-913, 2017
- 6) Shoemaker S, Brach C. Implementation Guide for AHRQ's Making Informed Consent an Informed Choice Training Modules. Prepared under Contract No. HHS2902010000311, TO #3. AHRQ Publication No. 17-0061-1-EF. Rockville, MD: Agency for Healthcare Research and Quality; January 2017.
- 7) 「臨床研究等における患者・市民参画に関する動向調査」委員会(監修)。患者・市民参画(PPI)ガイドブック。<https://www.amed.go.jp/content/000055213.pdf>
- 8) Maurer M, Dardess P, Carman KL, et al. Guide to Patient and Family Engagement: Environmental Scan Report. AHRQ publication No.12-0042-EF. Rockville, MD: Agency for Healthcare Research and Quality; May 2012
- 9) WHO 2016. Patient Engagement: Technical Series on Safer Primary Care.
<https://apps.who.int/iris/bitstream/handle/10665/252269/9789241511629-eng.pdf?sequence=1>
- 10) Minniti, M.; Abraham, M. Essential allies – Patient, Resident, and Family Advisors: A guide for staff liaisons. Bethesda, MD: Institute for Patient- and Family-Centered Care; 2013
- 11) Herrin J, Harris KG, Kenward K, et al. Patient and family engagement: a survey of US hospital practices. *BMJ Qual Saf* 25:182-189, 2016
- 12) personal communication
- 13) AHRQ (Working With Patients and Families as Advisors (Implementation Handbook)).
<https://www.ahrq.gov/sites/default/files/wysiwyg/professionals/systems/hospital/engag>

ingfamilies/strategy1/Strat1_Implement_Hndbook_508_v2.pdf

14) American Hospital Association.

<https://www.aha.org/system/files/media/file/2022/01/alliance-pfac-blueprint-2022.pdf>

15) PFAnetwork. <https://www.pfanetwork.org/>

16) 対馬義人, 小松康宏, 斎藤繁, 塚越聖子。患者・医療者の診療記録共有 世界の流れと群馬大学医学部附属病院における取り組み。中外医学社 2022年。

17) Walker J, Leveille SG, Ngo L, et al. Inviting Patients to Read Their Doctors' Notes: Patients and Doctors Look Ahead: Patient and Physician Surveys. *Ann Intern Med.* 155(12): 811-819, 2011

18) 腎臓病SDM推進協会。慢性腎臓病患者とともにすすめるSDM実践テキスト: 患者参加型医療と共同意思決定。医学書院。2020年。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計21件（うち査読付論文 11件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 Komatsu H, Komatsu Y	4. 巻 11
2. 論文標題 The Role of Nurse on the Treatment Decision Support for Older People with Cancer: A Systematic Review	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Healthcare (Basel)	6. 最初と最後の頁 546
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.3390/healthcare11040546	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 Komatsu Y	4. 巻 9
2. 論文標題 Polypharmacy and sustainable developmental goals: linking evidence-based medicine, patient engagement, and shared decision-making	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 Ren Replace Ther	6. 最初と最後の頁 20
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s41100-023-00474-3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -
1. 著者名 小松康宏	4. 巻 16
2. 論文標題 腎臓診療におけるshared decision making(SDM) 患者参加型医療とEBM実践の視点から	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 腎臓内科	6. 最初と最後の頁 732-737
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 小松康宏	4. 巻 37
2. 論文標題 腎代替療法におけるShared Decision Making(SDM)	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 日本透析医会雑誌	6. 最初と最後の頁 12-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松康宏	4. 巻 39
2. 論文標題 腎代替療法の選択 患者参加によるEBMの実践	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 臨床透析	6. 最初と最後の頁 147-153
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19020/CD.0000002455	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松康宏	4. 巻 63
2. 論文標題 腎臓病の共同意思決定 (SDM) と保存的腎臓療法 (CKM)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本腎臓学会誌	6. 最初と最後の頁 165-170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松康宏	4. 巻 79
2. 論文標題 腎臓病診療におけるshared decision makingの意義	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本臨床	6. 最初と最後の頁 1964-1971
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松康宏	4. 巻 41
2. 論文標題 Informed consent (IC) から共同意思決定 (shared decision making) にむけて	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本小児腎不全学会雑誌	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松康宏	4. 巻 63
2. 論文標題 腎臓病の共同意思決定(SDM)と保存的腎臓療法(CKM)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 日本腎臓学会誌	6. 最初と最後の頁 165 - 170
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松康宏	4. 巻 15
2. 論文標題 心理的安全性 群馬大学医学部附属病院の事例 各部署・各職種の壁を取り払う実践	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医療の質・安全学会誌	6. 最初と最後の頁 375-377
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松康宏	4. 巻 59
2. 論文標題 患者参加型医療が医療の在り方を変える - 21世紀医療のパラダイムシフト	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 国民生活研究	6. 最初と最後の頁 56-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 1.小松 康宏, 石田 真理	4. 巻 34
2. 論文標題 透析患者の自己決定プロセスと共同意思決定(SDM)-透析スタッフが知っておくべきこと	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本透析医会雑誌	6. 最初と最後の頁 434-440
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松康宏	4. 巻 9
2. 論文標題 Shared decision makingによる腎代替療法の選択	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 腎臓内科・泌尿器科	6. 最初と最後の頁 617-621
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松康宏	4. 巻 148
2. 論文標題 腎代替療法選択におけるチームアプローチ	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 日本医師会雑誌	6. 最初と最後の頁 457-460
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松 康宏	4. 巻 35
2. 論文標題 特集 その人らしい生活を支える透析看護 1. 概論(3)さまざまな療法選択のあり方と共同意思決定	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 臨床透析	6. 最初と最後の頁 1343 ~ 1349
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.19020/CD.0000001074	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Fujita Miho, Yonekura Yuki, Nakayama Kazuhiro	4. 巻 23
2. 論文標題 The factors affecting implementing shared decision-making in clinical trials: a cross-sectional survey of clinical research coordinators' perceptions in Japan	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 BMC Medical Informatics and Decision Making	6. 最初と最後の頁 39039
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12911-023-02138-y	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Aoki Yoriko, Nakayama Kazuhiro	4. 巻 1
2. 論文標題 Improving older adults stroke survivors' decision making when selecting a discharge location: A randomized controlled trial protocol	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 International Journal of Nursing Knowledge	6. 最初と最後の頁 1-8
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1111/2047-3095.12393	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakayama Kazuhiro, Yonekura Yuki, Danya Hitomi, Hagiwara Kanako	4. 巻 22
2. 論文標題 Associations between health literacy and information-evaluation and decision-making skills in Japanese adults	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 BMC Public Health	6. 最初と最後の頁 1473-1473
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12889-022-13892-5	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Nakayama Kazuhiro, Osaka Wakako, Matsubara Nobuaki, Takeuchi Tsutomu, Toyoda Mayumi, Ohtake Noriyuki, Uemura Hiroji	4. 巻 20
2. 論文標題 Shared decision making, physicians' explanations, and treatment satisfaction: a cross- sectional survey of prostate cancer patients	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 BMC Medical Informatics and Decision Making	6. 最初と最後の頁 334-334
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1186/s12911-020-01355-z	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 滝沢 牧子、田中 和美、大石 裕子、岸 美紀子、小松 康宏	4. 巻 17
2. 論文標題 ペイシェント・ジャーニーの視点を取り入れたオンライン卒前医療安全教育の試み	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 医療の質・安全学会誌	6. 最初と最後の頁 24~31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.11397/jsqsh.17.24	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小松 康宏、齋藤 繁、滝沢 牧子、田中 和美、大石 裕子	4. 巻 15
2. 論文標題 心理的安全性：群馬大学医学部附属病院の事例	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 医療の質・安全学会誌	6. 最初と最後の頁 375～377
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.11397/jsqsh.15.375	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計20件（うち招待講演 8件／うち国際学会 1件）

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 患者参加型医療の国際的動向と群馬大学病院の取り組み
3. 学会等名 第60回日本癌治療学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 患者参加型医療と共同意思決定(SDM)
3. 学会等名 第17回医療の質・安全学会学術集会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 共同意思決定(SDM)とアドバンス・ケア・プランニング(ACP)
3. 学会等名 第67回日本透析医学会学術集会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 患者参加型医療と共同意思決定 (Shared Decision Making) を考える
3. 学会等名 第 28 回日本腹膜透析医学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 インフォームド・コンセントから共同意思決定へ真のEBMを実践するために
3. 学会等名 第75回日本胸部外科学会定期学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 腎臓・透析医療と共同意思決定
3. 学会等名 第24回日本腎不全看護学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 慢性腎臓病における共同意思決定と保存的腎臓療法
3. 学会等名 日本腎臓学会東部会 (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 治療法決定に参加する - インフォームド・コンセントからSDMに -
3. 学会等名 令和3年国公立大学医療安全セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 腎代替療法における共同意思決定
3. 学会等名 2021年日本透析医会秋期研修セミナー（招待講演）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 石田真理、小松康宏
2. 発表標題 腎代替療法選択におけるShared Decision Makingの定着に向けての課題と実践 腎臓病SDM推進協会の活動と取り組み
3. 学会等名 日本透析医学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 大石 裕子, 滝沢 牧子, 千明 聡子, 中山 典幸, 倉澤 玲子, 田中 和美, 小松 康宏
2. 発表標題 「患者入院ポスター(Hospital Patient Journey Map)」を通じて患者参加型医療の理解を深める
3. 学会等名 医療の質・安全学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Komatsu Yasuhiro
2. 発表標題 Shared Decision making for choosing Renal Replacement Therapy in the world and in Japan
3. 学会等名 The 9th Asia Pacific Chapter Meeting of International Society for Peritoneal Dialysis. (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 療法選択説明は患者に十分伝わっているのか
3. 学会等名 第64回日本透析医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 協働の意思決定(Shared Decision making)
3. 学会等名 第64回日本透析医学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 チームで進めるShared Decision making
3. 学会等名 第62回日本腎臓学会学術集会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小松康宏
2. 発表標題 Informed Consentから協働の意思決定 (Shared Decision Making) にむけて ICは「する」もの? 「受ける」もの?)」
3. 学会等名 第41回日本小児腎不全学会学術集会 (招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 山口典宏, 滝沢牧子, 野間口聡, 亀田信介
2. 発表標題 患者参加型医療の推進におけるカルテ共有の意義と未来-あなたのカルテ見せられますか- カルテは誰のもの ニューヨークで医師として、そして患者としてカルテを共有してみたら
3. 学会等名 第16回医療の質・安全学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 滝沢牧子, 対馬篤人, 小松康宏
2. 発表標題 患者参加型医療の推進におけるカルテ共有の意義と未来-あなたのカルテ見せられますか-患者参加型医療への挑戦
3. 学会等名 第16回医療の質・安全学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小松康宏, 滝沢牧子, 田中和美, 大 裕子
2. 発表標題 医学科学生を対象としたオンラインでのチームワーク・スキル演習の試みと評価
3. 学会等名 第15回医療の質・安全学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 田中和美, 岸美紀子, 小松康宏
2. 発表標題 学生教育へのノンテクニカルスキルトレーニングTeamSTEPPSの導入
3. 学会等名 第51回日本医学教育学会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 対馬 義人, 小松 康宏, 斎藤 繁, 塚越 聖子	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中外医学社	5. 総ページ数 126
3. 書名 患者・医療者の診療記録共有 世界の流れと群馬大学医学部附属病院における取り組み	

1. 著者名 腎臓病SDM推進協会	4. 発行年 2020年
2. 出版社 医学書院	5. 総ページ数 200
3. 書名 慢性腎臓病患者とともにすすめるSDM実践テキスト	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	田中 和美 (Tanaka Kazumi) (30526843)	群馬大学・大学院医学系研究科・助教 (12301)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中山 和弘 (Nakayama Kazuhiro) (50222170)	聖路加国際大学・大学院看護学研究科・教授 (32633)	
研究分担者	小松 浩子 (Komatsu Hiroko) (60158300)	日本赤十字九州国際看護大学・看護学部・教授 (37123)	
研究分担者	滝沢 牧子 (Takizawa Makiko) (70613090)	群馬大学・大学院医学系研究科・助教 (12301)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関